

62 都市農業機能発揮対策事業 [新規]

【191（－）百万円】

対策のポイント

- ・都市農業が多様な機能を発揮していけるよう、都市農業の振興に向けた調査・検討等を進めるとともに、都市農業の新たな取組である福祉農園について、先進事例の創出等を推進します。

<背景／課題>

- ・都市農業が多様な機能を発揮していけるよう、都市農業の振興に向けた取組が求められています。
- ・このため、関係省庁と連携して、都市農業に関する制度の調査・検討や、都市農業の意義の啓発を進めるとともに、新たな取組である福祉農園の拡大・定着等を進めていく必要があります。

政策目標

○都市住民の中での都市農業に対する肯定的評価の拡大

（意識・意向調査による肯定的評価の割合
52%（平成23年度）→ 70%（平成32年度））

<主な内容>

1. 都市農業についての制度検討

都市農業の多様な機能の発揮を促進するため、国土交通省と連携し、都市農業に関する制度等について即地的、実証的に調査・検討を実施します。

（委託費
委託先：地方公共団体等）

2. 都市農業の意義の周知

制度検討から得られた課題を踏まえつつ、都市農業が多様な機能を発揮することの意義を周知するため、専門家の派遣、啓発事業の開催等を支援します。

（補助率：定額
事業実施主体：民間団体等）

3. 福祉農園の開設支援

都市農業の新たな取組である福祉農園（障害者福祉農園、高齢者福祉農園等）について、制度検討から得られた知見を生かしつつ、厚生労働省や地方公共団体と連携し、ソフト、ハードの両面から先進事例の創出と横展開を推進します。

（補助率：定額、1／2以内
事業実施主体：NPO法人、社会福祉法人、民間団体等）

[お問い合わせ先：農村振興局都市農村交流課（03-3502-0033）]

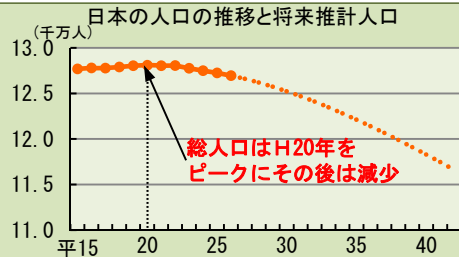
都市農業機能発揮対策事業 [新規]

【平成27年度予算概算決定額 191 (一) 百万円】

都市農業・都市農地を めぐる環境の変化

人口・社会の変化

○人口の減少が進む中、都市の開発需要は減少。住宅と農地の共生するまちづくりが課題に。

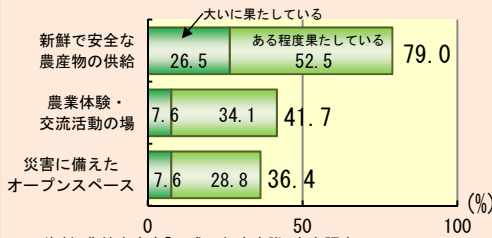


資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」より

都市住民の理解

○都市において都市農業、都市農地の保全を求める声が拡大。一方で、その果たしている役割への理解にはばらつき。

都市住民の都市農業・農地の役割への理解



資料: 農林水産省「平成23年度意識・意向調査」

農と福祉の連携の推進

○障害者の多様な就労機会の確保や高齢者福祉における介護メニューとして「農」へのニーズが拡大。



障害者福祉農園での就業機会の確保

関係省庁と連携して都市農業の多様な機能の発揮に向けた環境を整備

都市農業についての制度検討

都市農業の多様な機能の発揮を促進するため、国土交通省と連携し、都市農業に関する制度等について即地的、実証的に調査・検討を実施。

(委託費)
(委託先: 地方公共団体等)



現地における実証調査と検討

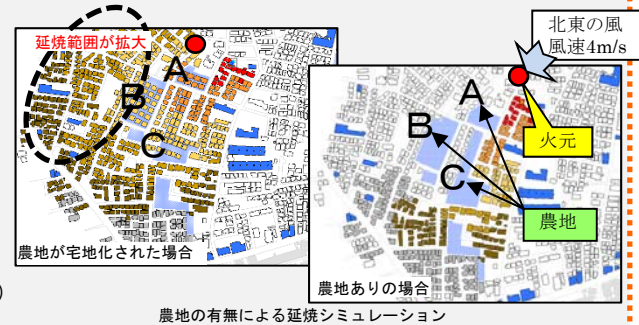
都市農業の機能発揮

都市農業の意義の周知

都市農業が多様な機能を発揮することの意義を周知するため、専門家の派遣、啓発事業の開催等を支援。

【原則1~2年】

(ソフト・定額)
(事業実施主体: NPO法人、民間団体等)



福祉農園の開設支援

都市農業の新たな取組である福祉農園(障害者福祉農園、高齢者福祉農園等)について、厚生労働省や地方公共団体と連携し、ソフト、ハードの両面から先進事例の創出と横展開を推進。

【ハード: 1年、ソフト: 原則1~2年】

○福祉農園の開設を支援。併せて、運営を担う人材育成を支援。(ハード・1/2補助 + ソフト・定額)

○福祉農園の全国への拡大・定着を推進。(ソフト・定額)

(事業実施主体: NPO法人、社会福祉法人、民間団体等)



介護福祉施設での農園整備